

8月9日 年間第 19 主日

イエスのところに来なさい

ヨハネによる福音書 6 章 41～51 節

⁴¹ ユダヤ人たちは、イエスが「わたしは天から降って来たパンである」と言われたので、イエスのことをつぶやき始め、⁴² こう言った。「これはヨセフの息子のイエスではないか。我々はその父も母も知っている。どうして今、『わたしは天から降って来た』などと言うのか。」⁴³ イエスは答えて言われた。「つぶやき合うのはやめなさい。⁴⁴ わたしをお遣わしになった父が引き寄せてくださらなければ、だれもわたしのもとへ来ることはできない。わたしはその人を終わりの日に復活させる。⁴⁵ 預言者の書に、『彼らは皆、神によって教えられる』と書いてある。父から聞いて学んだ者は皆、わたしのもとに来る。⁴⁶ 父を見た者は一人もいない。神のもとから来た者だけが父を見たのである。⁴⁷ はっきり言うておく。信じる者は永遠の命を得ている。⁴⁸ わたしは命のパンである。⁴⁹ あなたたちの先祖は荒野でマンナを食べたが、死んでしまった。⁵⁰ しかし、これは、天から降って来たパンであり、これを食べる者は死なない。⁵¹ わたしは、天から降って来た生きたパンである。このパンを食べるならば、その人は永遠に生きる。わたしが与えるパンとは、世を生かすためのわたしの肉のことである。」

他の朗読：列王記上 19:4～8 詩編 34:2～9 エフェソ 4:30～5:2

Lectio …読む

ヨハネのこの章は、イエスが命のパンであることを強調します。イエスの聴衆は、彼の言葉とそれが表すことに反応し始めます。

ヨハネによれば、人々ははじめ、自分は天からやって来たというイエスの主張に反応します。イエスは、自分は命のパンであり、御父から遣わされて来たのだ、と言います。人々は、イエスの父も母も知っており、どこに住んでいるかも知っていたので、この主張をばかげているとして拒絶します。

イエスは彼らの反対を無視し、自分を知り、理解するには御父からの恵みが必要であると語ります。御父が「イエスのところに引き寄せて」くれるのでなければ誰もイエスのところには行けないのです。父なる神は、私たちのイエスへの信仰の本当の源です。私たちの役割は、信仰の内に神の素晴らしい救いの賜物に応え、神の意志に私たちの命を委ねることです。ですからイエスへの信仰は、ただ私たちが考え、信じることだけでは済まされません。私たちの全ての生活は、神と私たちの間の関わりに関係しています。これは私たちキリスト者の共同体の内外に関わらず、全ての人々に対する愛の約束を含んでいるのです。

イエスは「命のパン」のテーマを続けますが、後半には「聖体のパン」にも言及しています。「わたしが与えるパンとは、世を生かすためのわたしの肉のことである」—聖体のイエスは、私たちの霊的な生活と、神と私たちの関わりを支え、深めるのです。

全てを始められたのは神です。言（ロゴス）なるイエスが私たちのパンであるというのは、神の計画です。この一節はイエスと天の御父との私たちの関わりという神秘へ深く私たちを引き入れてくれます。

Meditatio …黙想する

あなたがイエスを信じ、愛する決意をしたのがいつだったのか、思い出せますか。あなたはまた、御父である神と聖霊とも同じように関わりを持っていますか。

あなたはイエスのことをどう思いますか。彼の一番好きなのところはどこでしょうか。今日の朗読箇所

のイエスの言葉で、受け入れ難いと感じるところはどこでしょうか。

Oratio …祈る

今日の朗読に、あなたはどうか応えるでしょうか、よく考えてみましょう。次の言葉をあなた自身の祈りとすることが出来るでしょうか。

「主イエスよ、私はここにいます。御父が私にこの機会と恵みをお与えになったので、あなたに従ってまいります。」

詩編 34 編は主との出会いについて語っています。9 節は、それを非常に良くまとめています。

「味わい、見よ。主の恵み深さを。

いかに幸いなことか、御もとに身を寄せる人は。」

様々な方法でご自身の善良さを示してくださった神に、感謝を捧げましょう。家族や友達も、彼らへ示されている神の善良さに気付くことが出来るように祈りましょう。

Contemplatio …観想する

列王記上 19 章 4～8 節の中で、エリヤは絶望し、死ぬことを望みましたが、神は彼を永らえさせるために「天からのパン」をお与えになりました。最後までこの話を読んで、エリヤと神との劇的な出会いから学ぶべきことを考えてみましょう。

私たちは再びこのエフェソの信徒への手紙の豊かさを味わいます (4 章 30 節～5 章 2 節)。神を喜ばせるための実際的な素晴らしい勧めを読んで、この勧めに従って生きることが出来るように神の恵みを願いましょう。